

総合農業技術センター試験研究課題事前評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜の作期拡大技術の確立（H23～）

小課題名：スイートコーンの生産拡大に向けた作型開発および栽培改良（H29～31）

担当者名：渡辺淳、長谷川茂人、五味敬子

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究の必要性	4.6	山梨野菜の主要品目であるスイートコーンの長期出荷、増産を図ることは県の指針と一致し、大いに期待できる。また、行楽地を多く有する県としては、作期拡大による消費増加およびブランド名の構築に優位性がある。
2 研究内容の妥当性	4.6	消費拡大のみならず今後の気象変化の対応策としても作期拡大には、研究の妥当性がある。また、直売、市場出荷など、多くの農家に取り組める可能性が高いと思われる。
3 研究内容の新規性、独創性	3.6	無理に新規性、独創性に特化することなく、作期の見直しや確実性を重視していることは評価出来る。
4 研究資源の妥当性	4.0	消費拡大のみならず今後の気象変化の対応策としても作期拡大には、研究の妥当性がある。また、直売、市場出荷など、多くの農家に取り組める可能性が高いと思われる。
5 目的達成の可能性	4.2	数値目標も明確であり、品種、作型を検討することで目的達成の可能性は高い。
6 期待される成果	4.6	行楽地を多く有する県としては、ブランド化の確立や作期拡大により県内作物消費の増加と収益増加が期待できる。
総合評価	4.3	新規課題として実施すべき課題である。ぜひ、スイートコーンで山梨ブランドを確立して欲しい。

総合農業技術センター試験研究課題事前評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜の作期拡大技術の確立（H23～）

小課題名：再生可能エネルギーを活用した夏秋イチゴの収穫期拡大技術の開発（H29～31）

担当者名：長谷川茂人、窪田哲、望月寛徳、加藤成二

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究の必要性	4.6	再生可能エネルギーの活用は全国的な課題であり、そこに県産品種をターゲットにした作期拡大には優位性が認められる。
2 研究内容の妥当性	4.2	化石エネルギーに代わるものとしての時代の要求性と緊急性がある。平坦地での作型導入で新規産地育成に先導性がある。また、栽培技術のある冬春イチゴの栽培者に夏秋イチゴの栽培を導入することにより、栽培面積が拡大する可能性は高い。
3 研究内容の新規性、独創性	4.2	単一の再生可能エネルギーではなく、目的に合わせて数種を組み合わせる試みは新規性・独創性が高い。また、オリジナル品種の改良により新規知的所有権が確保できる。
4 研究資源の妥当性	4.0	作期拡大が可能になれば、イチゴ利用で企業提携の可能性はある。
5 目的達成の可能性	4.0	各種再生可能エネルギーを活用により新規作型を開発できる可能性は大きい。
6 期待される成果	4.0	収穫期を変動させ、品薄時の収穫に再生可能エネルギーを利用する試みは大いに評価出来る。さらに、新規産地の開発、既存産地の活性化が期待できる。
総合評価	4.2	再生可能エネルギー利用により、収穫期拡大が可能になると共にイチゴのクリーンさが消費者にアピール出来、販路の拡大が望める。新規課題として実施すべき課題である。

総合農業技術センター試験研究課題事前評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きの栽培改良（S47～）

小課題名：夏秋トマトの高品質化・高機能化・省力化栽培技術の確立（H29～31）

担当者名：萩原裕一、窪田哲

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究の必要性	4.8	気候変動や栽培者の高齢化に対応した、トマト栽培を目指す本研究の必要性は高い。また、直売でもトマトは人気品目であり、生産者の栽培意欲の高揚のためにも必要な課題である。
2 研究内容の妥当性	4.4	大玉トマトの超省力栽培については、栽培者の高齢化に伴い、労力の軽減が生産拡大には必要となる。
3 研究内容の新規性、独創性	4.0	実用性が高い技術を用いている事は大いに評価出来る。また、山梨ブランドの確立という点において優位性がある。
4 研究資源の妥当性	3.6	省力・低コスト化が可能であり研究資源の妥当性が高い。
5 目的達成の可能性	4.0	水分制御・受光改善で高品質化・ブランド化の可能性が高い。
6 期待される成果	4.2	超省力技術の開発で高齢化・新規就農者への対応が期待できる。また、おいしいトマトが安定的に生産されることで有利販売や生産量増加が期待できる。
総合評価	4.2	高齢化、面積減少の対策として、新たな栽培技術で、山梨県産トマトのブランド化を目指している。新規課題として実施すべき課題である。

総合農業技術センター試験研究課題事前評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きの栽培改良（S47～）

小課題名：富士山やさい生産に適した低コスト施設による新規栽培法の確立（H29～31）

担当者名：志村貴大、渡辺淳

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究の必要性	4.8	北麓地域は夏の観光客が多く、直売所の需要は高い。生産規模が大きくないため、直売所に出せる生産者を増やしていくためには必要性がある。また、ブランド野菜の多品目化は優位性が高い。
2 研究内容の妥当性	4.4	気象変化に対応した研究は緊急性が高い。また、富士北麓という地域柄、多品目、少量栽培に、また高齢者、直売にも対応できる技術と思われる。
3 研究内容の新規性、独創性	3.6	簡易大型トンネルを利用した新規作型開発にはオリジナリティーがある。
4 研究資源の妥当性	3.4	低コスト化が可能であり妥当性がある。
5 目的達成の可能性	4.2	予備研究が実施されており達成の可能性が高い。
6 期待される成果	4.4	受益範囲の拡大とコスト低減が期待できる。また、富士山野菜としての生産量の安定化と増大が出来れば地域の産業として期待できる。
総合評価	4.1	栽培農家にとっては重要なことを、実務的研究をもって問題解決しようとするところが大いに評価出来る。新規課題として実施すべき課題である。

総合農業技術センター試験研究課題事前評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きの栽培改良（S47～）

小課題名：山梨ブランド花きの品質向上技術の確立（H29～31）

担当者名：渡辺淳、志村貴大

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究の必要性	4.6	栽培品種のブランド化、特に、山梨ブランド花はこれからの農業の浮沈を担うので、研究の必要性は高い。
2 研究内容の妥当性	4.4	土壌・肥料的見地からの検討が主となっていて、これまで積み重ねて来た手法を応用する実験内容は、妥当性が高い。
3 研究内容の新規性、独創性	4.0	新たな特産花きの作出のために、新たな資材の活用など独創的な方法が期待される。
4 研究資源の妥当性	3.6	山梨ブランド花きの利用という点において、研究資源の妥当性が高い。
5 目的達成の可能性	3.6	予備研究が実施されており目的達成が期待できる。
6 期待される成果	4.0	多くの生産者が取り入れることができる生産体系の確立が期待される。
総合評価	4.0	多岐にわたる研究内容であるいが、着実な研究の継続により達成できる可能性が高い。新規課題として実施すべき課題である。

総合農業技術センター試験研究課題事前評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きの栽培改良（S47～）

小課題名：特産野菜に含まれる機能性成分および栄養成分の実態把握（H29～31）

担当者名：馬場久美子、加藤知美、五味敬子

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究の必要性	4.6	医食同源は高齢化社会においては極めて重要であるので、特産野菜の機能性成分および栄養成分に関する網羅的調査研究の必要性は極めて高い。
2 研究内容の妥当性	4.2	地域特産農産物の販路拡大には、美味しさに加えて機能性をアピールすることは重要である。
3 研究内容の新規性、独創性	3.4	県内の色々な産地からの地域特産野菜に含まれる機能性成分を特定しようとする研究は、新たな科学的知見の獲得に繋がるという点において新規性があり独創的である。
4 研究資源の妥当性	4.0	オリジナル品種・新規品種の作出が期待でき研究資源の妥当性が高い。
5 目的達成の可能性	4.4	基礎資料を地道に収集することで目的は達成できると考える。また、現状の地域品目での栄養機能表示の候補の選定は可能性が高いと思われる。
6 期待される成果	4.4	特産野菜の機能性成分および栄養成分について明らかになれば、ブランド名の構築に繋がるのが期待できる。
総合評価	4.2	高齢化社会に向けて県産野菜の栄養成分の特性解析が出来ると、健康寿命上昇へのアピールとなり販路拡大が望める。新規課題として実施すべき課題である。

総合農業技術センター試験研究課題事前評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きのオリジナル品種育成と栽培技術の確立（H12～）

小課題名：ピラミッドアジサイの新品種育成（H29～33）

担当者名：穴澤拓未、望月寛徳、藤木俊也

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究の必要性	4.6	オリジナル品種の作出や栽培法の開発に実績があり優位性が極めて高い。
2 研究内容の妥当性	4.2	明確なコンセプトがあり、鉢花・切り花としての戦略性・先導性が高い。
3 研究内容の新規性、独創性	3.8	品種交雑、系統選抜には独創性が必要となることから、オリジナリティーの高い品種の作出が期待でき、同時に産地としての基盤確立が期待できる。
4 研究資源の妥当性	3.4	オリジナル品種・新規品種の作出が期待でき妥当性が高い。
5 目的達成の可能性	4.0	育種実績及び予備研究があり目的達成の可能性が極めて高い。
6 期待される成果	4.0	産地の競争力の強化が期待できる。また、新品種の作出が期待できる。
総合評価	4.0	背景と問題点および研究内容が明確に示されていて研究の成功が期待出来る。新規課題として実施すべき課題である。

総合農業技術センター試験研究課題事前評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：鳥獣害防止策の検証（H15～）

小課題名：難防除獣害に対する新技術の開発及び既存技術の効果検証（H29～31）

担当者名：本田剛

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究の必要性	4.4	山林が多い当県にとっては喫緊の問題であり研究の必要性はきわめて高い。
2 研究内容の妥当性	4.4	緊急性が高く、企業との連携もあり、研究内容の妥当性は高い。
3 研究内容の新規性、独創性	4.0	動物の習性を観察することによる装置の開発に新規性、独創性が見られる。
4 研究資源の妥当性	3.6	外部資金導入の可能性が示唆される。
5 目的達成の可能性	4.0	予備研究実績があり、また、具体性のある技術開発であるので、目的達成が期待できる。
6 期待される成果	4.2	普及性があり受益の範囲の拡大が期待できる。
総合評価	4.1	鳥獣害の被害とその対策は知能を持つ同士の戦いであり、本研究のように斬新な装置を用いた対応策の構築は重要である。新規課題として実施すべき課題である。

総合農業技術センター試験研究課題事前評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：作物・野菜・花き病害虫の防除技術の改善（S54～）

小課題名：携帯情報端末を利用した野菜の病害虫診断サポートシステムの開発（H29～31）

担当者名：村上芳照、石田久美子

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究の必要性	4.6	診断システムの構築は生産者にとっての利便性が極めて高い。
2 研究内容の妥当性	4.2	生産現場でのニーズが高く先導性がある。また、何をどのように情報化すのかが明確であり、沢山の画像が用意されていることは、大きな利点である。
3 研究内容の新規性、独創性	3.2	システムの構築ができれば知的所有権の取得も可能である。
4 研究資源の妥当性	3.6	防除技術に繋がれば研究の価値は大きい。また外部資金導入の可能性もある。
5 目的達成の可能性	3.8	既に多くの情報を収集しており目的達成の可能性は高い。
6 期待される成果	4.2	早期診断ができれば防除技術の開発に繋がることが期待できる。
総合評価	3.9	IT世代の農業従事者にとっては好都合の被害対策システムであり、低農薬・高収量をもたらすため若手就農者の増加に繋がる。新規課題として実施すべき課題である。